

2000年7月4日

報道関係者各位

株式会社ネットワークバリューコンポネンツ

イスラエル・ファイブロン社の高性能光ファイバ・メディアコンバータ
「S. CON1」「S. CON8」などを発売開始
～日本初の本格的な多ポートタイプ～

記

ネットワーク関連システムの総合的なサービスを提供している株式会社ネットワークバリューコンポネンツ（本社：横須賀市小川町14-1、代表取締役：渡部進、以下略称：NVC）は、ビルや工場施設などの光ファイバLAN構築を大きくコストダウンできるファイブロン社（FibroLAN.Ltd、イスラエル）の光ファイバ・メディアコンバータ「S. CON1」「S. CON8」などを、きたる7月10日より本格発売します。日本国内では初めての本格的な多ポートファイバ・メディアコンバータです。

今回発売するのは、10/100Mbpsを自動認識するUTPポート、最長2000メートルマルチモードファイバ用のポートを持つメディアコンバータです。1ポートタイプの「S. CON1」、8ポートタイプ「S. CON8」など合計40タイプ以上を同時に発売します。BMD（Buffered Media Domain／注釈参照）技術により、シェアードハブ（伝送信号の再中継を行なう装置）が設置されている場合でも、ネットワークの拡張が実現できます。UTPポートにMDI-II/MDI-X（注釈参照）がありクロスケーブルが不要で、すべての操作がフロントパネルで可能です。また、電源も内蔵しており設置・メンテナンスが非常に簡単です。なお、今回の発売に合わせ、シングルモード用オプションも同時発売します。これを併用することにより、シングルモードの光ファイバは25kmまたは40kmまで信号を送ることが可能となります。

光ファイバ・メディアコンバータは、ビルや工場など広い施設内でのネットワークLANを構築する際、光ファイバとUTPとのメディア交換をする装置です。全世界に現存するネットワークLANスイッチ8,000万ポートの内の15%（1,200万ポート）は光ファイバとの接続といわれています。このデータ交換の多くは、不必要に高価なスイッチや高機能ハブが用いられています。光ファイバ・メディアコンバータはこれに代わることができ、しかも大きなコストダウンとなります。この分野の全世界での市場規模は3億USドルから5億USドルと推定され、日本国内市場はその1/10と見積もられています。

NVCでは、光ファイバを使用した高速通信ができるマンションの増加や工場、学校など広い敷地でのLAN構築が急速に広まっている現在のネットワーク市場に着目しました。より安く信頼性の高いLAN構築が可能な接続機器が日本市場に必要と判断し今回の製品導入を決定しました。NVCは、今回の発売を機にファイブロン社の光ファイバ・メディアコンバータの日本における総販売代理店となります。電設会社やネットワーク・インテグレーターへの直接販売や提携販売代理店での販売により、全国で販売します。

【ファイブロン社について】

イスラエル・ファイブロン社は、イスラエルのシリコンバレーと呼ばれる「サルタム・インダストリアル・パーク」に本社があります。Fast Ethernet から 10Mbps シングル及びマルチチャンネルのコンバータまですべてを取り揃える世界で唯一のコンバータ専門メーカーで、光ファイバ通信大手のフィブロニクス社 (Fibronics.Ltd、イスラエル) を母体に 1996 年に分離・独立しました。アメリカやフランスなど世界各国に拠点をもち、全世界でメディアコンバータを販売しています。

※注釈

BMD (Buffered Media Domain) 受信したパケットをいったんコンバータ内部のバッファに取り込み、コリジョンドメインを分割する機能です。MDI-II/MDI-X 通常ハブの RJ45 ポートは MDI-X であり、コンピューターなどのデータ端末が持つ RJ45 ポートは MDI-II に設計されています。LAN 機器同士を接続する際は、UTP ストレートケーブルで MDI-X と MDI-II で接続します。

以 上